

豊かな自然や文化・歴史を生かし、魅力的で将来展望のある天野の里を目指して

(和歌山県かつらぎ町天野地域における取組)

和歌山県推薦 都市農村交流アドバイザー (分野；観光交流)

谷口 千明 (天野の里づくりの会会長)

## 1 取組の概要

「天野の里づくりの会」では、里山保全、産業振興、伝統文化の継承・世代間交流、体験交流、移住交流の5つのテーマを柱として活動しており、それぞれの取組が有機的に結びつくことにより相乗効果を発揮し、地域の活性化につながっています。

活動には地域住民のみならず、地域外・県外のサポート会員や民間企業、大学、地域おこし協力隊員の協力を得て、精力的に取り組んでいます。

## 2 天野の里とは

和歌山県北東部にある「かつらぎ町」。その中部に天野の里があり、国道24号線より南へ車で15分、高野山のふもと標高450mに位置しています。世帯数は約100戸、人口は約270人の里山です。甘くて美味しい天野米や高原野菜の産地として有名です。

四季折々のどかな田園風景が広がる天野の里は、周りが山で囲まれた小さな盆地です。「山の上に、こんなに広々とした土地があるなんて、びっくりした。」「別世界だ!」と、



訪れる方は誰もが感動されます。評論家・エッセイストで知られる白洲正子さんが天野の里を訪れ「天の一廓(いっかく)に開ける夢の園」と感嘆し、著書「かくれ里」に老後はここに住みたいと述べられています。また、環境庁(現環境省)の『ふるさといきものの里』(源氏ホテル)、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」、朝日新聞・「にほんの里100選」等にも選ばれています。

## 3 天野の里づくりの会の誕生とそのきっかけ

- (1) 1996(平成8)年～2002(平成14)年の間、天野地区では圃場整備事業が行われました。圃場整備事業の導入まで2年をかけて、全区民で話し合いました。その話し合いの中で「田んぼの形は変わるが、昔からの天野の里の趣を残す」「耕作放棄地を出さない」ということを大切にすることになりました。
- (2) 2004(平成16)年7月、「紀伊山地の霊場と参詣道」がユネスコの世界遺産に登録されました。天野の里にある丹生都比売神社と高野参詣道の町石道も、その中に入っています。これを機会に、参拝客や観光客が増加しました。それをどう維持するか、どう活用していくか、検討しなければならない必要性が出てきました。文化や歴史を最大限に生かし、豊かな自然や景観を維持する取組を考えなければならなくなったのです。
- (3) また、天野への移住希望者がいるのに、誰に相談していいかわからない状況でした。その窓口が必要になりました。

そこで、自然や文化・歴史に恵まれた天野の里。それを生かした魅力的で将来展望のある天野の里づくりを進めるために、2006(平成18)年12月に『天野の里づくりの会』が誕生しました。そして、

翌年4月から取組を始めました。誕生当初は正会員22名、サポート会員7名、計29名でスタートしましたが、現在は地区正会員69名、サポート会員36名、計105名になっています。

#### 4 天野の里づくりの会の特徴や工夫

会員構成の特徴として、地区内の人は正会員に、地区外の方々はサポート会員になってもらいます。これは、地区外の人達の気づきや考えを大切にするためです。

また運営上の工夫として、会員が参加した時間に応じて、時給制で手当を支給しています。これは、「ボランティアの心は大切だが、それだけでは取り組みが長続きしない。時給制で手当を支給してはどうか。」と、2年目の総会の時に会員から意見が出され、決まったのです。そのおかげで、長い歲月、会員が協力し合い、年々充実した取組を展開して来ることが出来たのだと思います。

#### 5 主な取組の内容

##### (1) ウォーキングコースの整備とマップづくり

これは、最初に行った取組です。天野の里には世界遺産の丹生都比売神社や高野参詣道である町石道など源平時代の史跡がたくさんあります。これらの史跡を巡り、ウォーキングを楽しんでもらおうと考え、里山ウォーキング・マップを作りました。

##### (2) 「企業のふるさと」による異業種交流の推進

2009(平成21)年度から「企業のふるさと」による異業種交流を推進しています。「企業のふるさと」とは和歌山県で始まった取組です。「食」に関心の高い企業にCSR(企業の社会責任、社会貢献)の一環として、農山村地域の資源を活用しながら、農山村地域の方々と共に安全・安心な米づくりや地産地消の推進、また、地域の景観保全活動に参画して頂く新しい取組です。その第1号として、2009年(平成21年)5月に伊藤忠商事㈱と天野の里づくりの会が全国で初めて「企業のふるさと」の協定を結びました。そして、米作りと自然保全活動に取り組みました。この取組の中で大切にしていることは、「交流を深める」「天野のよさを理解してもらう」「第2のふるさととして感じてもらう」の3点です。



来訪者は、天野の自然や歴史・文化、天野米のおにぎりや野菜料理の美味しさだけでなく、会員や天野住民の

人柄や温もりに触れ、天野の里のファンやリピータにもつながっていきます。このことが、会員や天野住民の自信になり、地域の活性化に取り組む姿勢が高まったと言っても過言ではありません。

また、畑の休耕地を利用してそば栽培をしています。そばの種撒きや収穫の時にはヤンマー㈱の協力で、トラクター用施肥播種機や汎用コンバインが使用でき、約70アールの畑にそばの栽培をしています。収穫したそば粉を使い、そばイベントや手打ちそば体験のほか、そば粉は地元のレストランやお店でも販売しています。

##### (3) 田舎暮らしのサポート体制の充実

会の発足当時から現在まで、田舎暮らしのサポート体制の充実にも力を入れてきました。

天野の里における移住者世帯数は2011(平成23)年20.4%から、2020(令和2)年には31.1%になりました。

移住者は30～40歳代の方々が多く、子ども達の数も増え、2022(令和4)年度で小学生が19名、就学前児童も13名になりました。地域にサポートをしてくれる団体があるからこそ、安心して移住して来ることが出来るし、子どもを増やせるのだと思います。

移住者は地域に溶け込み、地域の方々との付き合いもよく、地域住民みんなから喜ばれています。

#### (4) 5つの事業への取組



2014(平成26)年から各種補助金を活用し①里山保全活動 ②産業振興事業 ③伝統文化の継承・世代間交流 ④体験交流事業 ⑤移住交流促進事業の5つの事業に取り組みました。

今一番力を入れているのは産業振興事業です。まず、補助事業を活用して竹パウダーの製造販売に取り組みました。この竹パウダーを土壌改良材として野菜や果樹栽培に使うと、糖度が増し、とても甘い作物ができ、また、硝酸態窒素の含有量も低くなりました。

た。

そして、今、特産品作りとして干し芋作りに取り組んでいます。竹パウダーで栽培したサツマイモ(紅はるか)を使い干し芋にします。すごく美味しくて綺麗な黄金色で、消費者からとても好評です。

また、竹パウダーを使って漬物の「楽チンぬか床」セットの開発・生産・販売も行っています。このぬか床で作る漬物はとても美味しく、「毎日ぬか床をかき混ぜなくてよい」といった特徴を持っています。

## 6 アドバイザー自身のPR

多くの仲間にも恵まれて、長い年月、会員が協力し合い、年々充実した取組を展開して来ることが出来ました。「天野の里づくりの会」の取組を進めていく中で「地域活性化の特効薬はない」「会員が意見を出し合い、一致したことから実施する」「少し努力したら出来ることから始める」「会員一人ひとりの持つよさを生かす」「一人ひとりが主人公になるようにする」といったことが、地域づくりをする上で大切なことだと学びました。

その結果、「天野の里づくりの会」は、次の賞を受けることが出来ました。

平成23年度豊かなむらづくり全国表彰事業 農林水産大臣賞受賞

平成30年度和歌山県緑化功労賞受賞

令和元年度過疎地域自立活性化優良事例 総務大臣賞受賞